

MONTHLY NEWS LETTER

三菱UFJモルガン・スタンレー証券

ビジネスと投資に役立つマンスリーニュースレター

7

July | 2026

高橋FPの社長が知りたいお金の話

小規模宅地等の特例、活用のポイント

海外経営者列伝

スンダー・ピチャイ

2分で分かる注目レポート

「Global Energy Review 2026」

7月の主要経済カレンダー

ECB理事会、米FOMC、金融政策決定会合ほか

マネークリップ

利回りはどこから来る？ 債券の基本構造

世界で愛される UKIYO-E 案内

東洲齋写楽

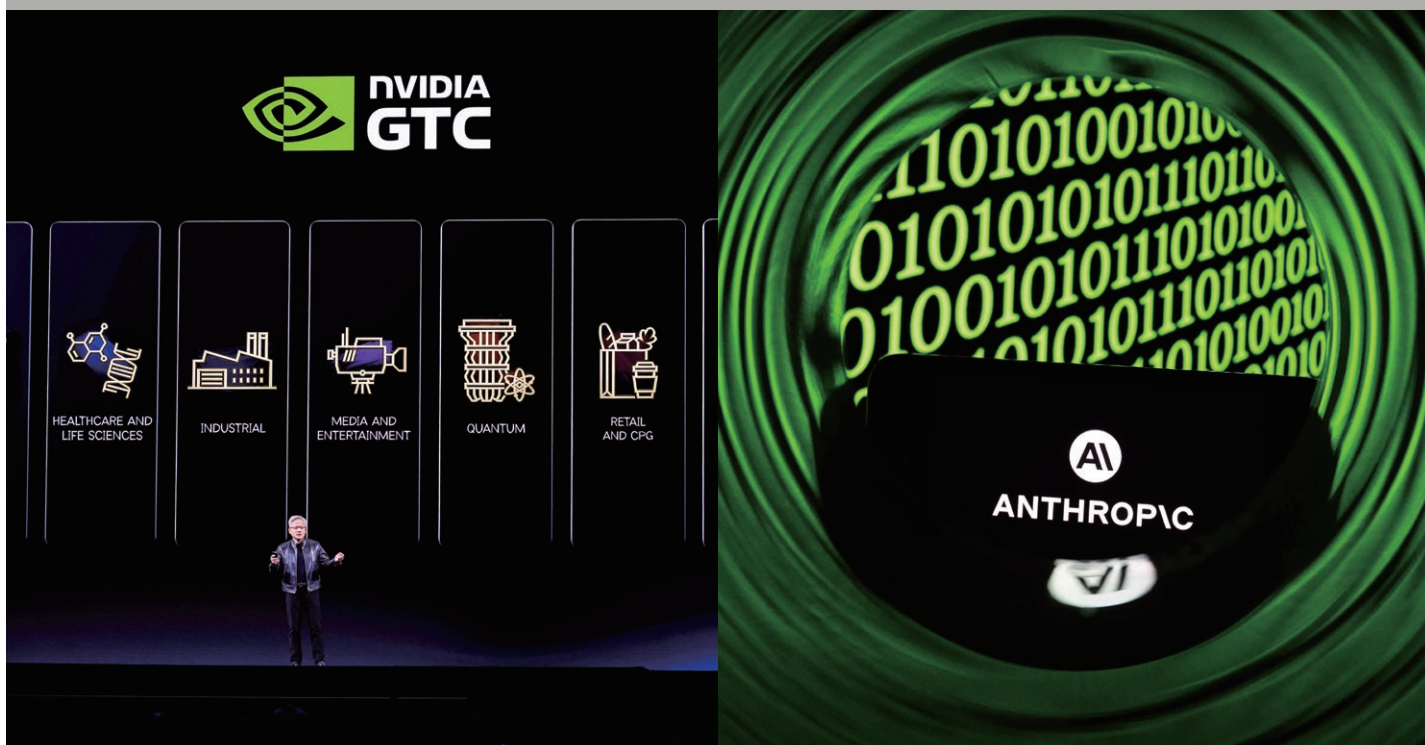


写真:AFP/アフロ

次の競争段階に？

AIブームの現在地

2022年後半から続くAIブーム。2026年も折り返し地点に差し掛かったが、依然としてマーケットの主役だ。ただし、その中身は少し変化している。

地政学リスクで揺れた2026年前半の株式市場をけん引したのは引き続きAI。息の長いブームに過熱を懸念する声もある。それでも、大規模な設備投資や企業の動きを見る限り、この流れがすぐに途切れるとは考えにくい。例えば、5月には新興AI企業のアンソロピックが資金調達ラウンドで評価額9,650億米ドルを前提に650億米ドルを確保したことを明らかにしている。評価額ベースでは、ブームのきっかけとなったオープンAIを上回ったことになる。資金流入の継続を確認するとともに、主役が固定されていないことも認識しておきたい。

半導体の主役交代？

株式市場におけるAIブームの立役者がエヌビディアであることに異論は少ないだろう。業績も堅調に推移している一方で、市場の視線は別の場所に移動している。これまでの学習中心の需要に加え、サービス利用を支える推論の重要性が高まっているためだ。この変化は、求められる計算資源の性質を変える。GPUの優位は維持されつつも、用途に応じた最適化が問われる中で、アドバンスド・マイクロ・デバイスやブロードコム、さらにはCPU需要の見直しを



通じたインテルなどが投資家の期待を集める。一方で、エヌビディアもAIに特化したCPUをリリースし、推論という次の市場に向けた競争が熱を帯びている。

そして今年前半に話題となったのが、メモリの逼迫だ。特に高帯域メモリ（HBM）はAI処理のボトルネックとして注目された。演算処理の速度を上げて、それに合わせてメモリを強化しなければ、全体の処理速度は向上しない。メーカーも生産能力の拡大に取り組み始めたが、「売り手市場」が続いている。ただし、シリコンサイクルと言われるように、半導体メーカーは「供給不足→価格上昇→設備投資→供給過多→価格下落」を繰り返してきた。メモリはその代表格とも言える。今後の動きは注視したい。

活用側にも目を向けてみよう。AIは多くの企業に効率化の機会をもたらす一方で、既存サービスの価値を揺るがした。SaaS分野では、AIが機能を代替し得るとの見方から株価に影響を受けた企業も多い。AIの活用を前提にどのように収益を維持できるかが問われている。また、AIのモデル開発においても、オープンAIとアンソロピックの動きが示すように、現時点の優位が長く続く保証はない。

総合力で浮上するアルファベット

インフラ面の制約も重要な論点だ。AIデータセンターの建設はハイペースで進むが、電力や水の確保がボトルネックとなりつつある。生活のインフラと競合する分野でもあり、一部の建設予定地では住民の反発などもある。結果、分散型電源や省電力化のソリューションに期待が集まっている。AIは仮想的な技術だが、データセンターは物理的な制約の中で拡大している。巨大な装置産業としての側面も認識すべきだろう。

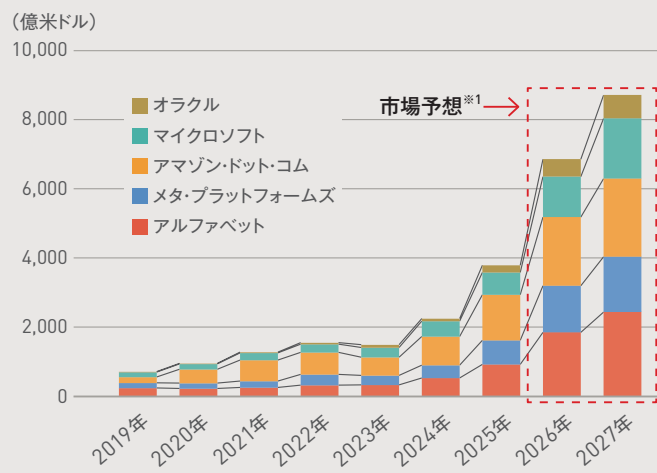
こうした中で、「垂直統合型」の企業の存在感も高まっている。アルファベットはその代表例で、AIモデル、半導体、クラウド、フィジカルAIなど幅広い領域で事業を展開する。全体最適の視点で、効率的なAIサービスの提供をめざしており、これが市場でも評価され始めている。例えば、バークシャー・ハサウェイは、2026年1-3月期に同社株の持ち高を大きく増やした。今年、広告収益でメタ・プラットフォームズが同社を上回るとの見方も出ているが、検索・広告を中心とした従来の評価軸はすでに変化していると言えそうだ。

*

AIブームは続いているものの、あらゆるレイヤーで競争が激しくなっている。どの分野でも、勝ち組を固定して考えるのは危険だ。取捨選択が重要で、レポートなどの情報を活用しながら投資機会を探る意義は大きいだろう。一方で、変化の速さを踏まえ、特定分野を広く捉える手段として、関連テーマに投資するファンドを併用することも、あわせて検討する価値があるのではないだろうか。

M

■ 図表1 ハイパースケーラー5社の設備投資



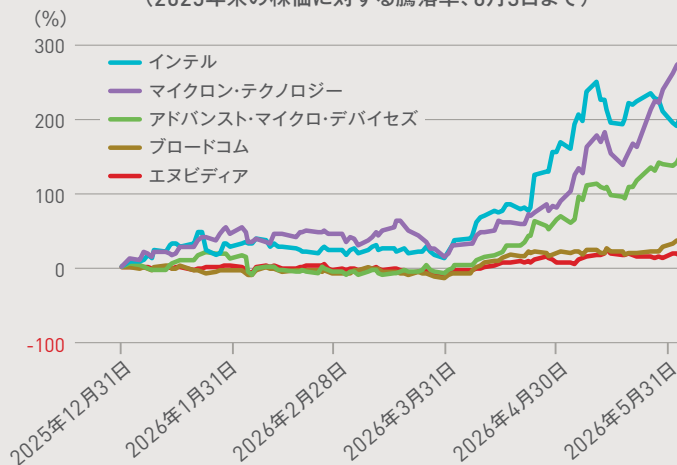
※1 市場予想はBloomberg集計(5月13日時点)

※2 オラクルは5月、マイクロソフトは6月が期末

(出所) Bloombergのデータをもとに当社作成

■ 図表2 米国半導体株の年初来騰落率

(2025年末の株価に対する騰落率、6月3日まで)



(出所) Bloombergのデータをもとに当社作成

■ 図表3 バークシャー・ハサウェイのポートフォリオ構成上位銘柄

(2026年3月末の保有時価上位10銘柄)

ティッカー	銘柄名(一部略記)	期末保有時価(億米ドル)			
		25/12末	比率(%)	26/3末	比率(%)
AAPL	アップル	620	22.6	578	22.0
AXP	アメリカン・エキスプレス	561	20.5	459	17.4
KO	コカ・コーラ	280	10.2	304	11.6
BAC	バンク・オブ・アメリカ	285	10.4	250	9.5
CVX	シェブロン	198	7.2	175	6.6
OXY	オキシデンタル・ベトリアム	109	4.0	172	6.5
GOOGL	アルファベットA株	56	2.0	156	5.9
CB	チャブ	107	3.9	112	4.2
MCO	ムーディーズ	126	4.6	108	4.1
KHC	クラフト・ハインツ	79	2.9	73	2.8
13F記載銘柄総計		2,742	100.0	2,631	100.0

※時価は全て13Fベース、構成比率は13F記載の25/12・26/3末の保有銘柄の総額に対する比率、なお13Fの開示対象は米国上場企業のみで、また全保有銘柄が開示されているわけではない点には留意が必要。各銘柄の時価は小数点第1位を四捨五入した

(出所) バークシャー・ハサウェイの資料をもとに当社作成